

学校法人柏木学園 柏木実業専門学校
令和1年度 学校評価報告書

令和2年5月1日
学校法人 柏木学園
柏木実業専門学校

学校法人柏木学園 柏木実業専門学校では、令和1年度の自己点検・自己評価にあたり自己点検委員会を設置し、学生・職員を対象とした聞き取り調査を行い、それに基づいて点検・評価の取りまとめを行いました。

また、内容については令和2年3月23日に学校関係者評価委員会を開催いたしました。その結果を、令和1年度学校評価報告書として報告いたします。

学校関係者評価委員は、以下の5名の方に委嘱しております。

鳴海 智	大和商工会議所 専務理事
武田 功成	松和電子システム株式会社 代表取締役社長（関係業界役員）
中村 真一郎	株式会社ネエチア 代表取締役社長（関係業界役員）
久次米 鈴代	社会福祉法人たつき会 特別養護老人ホーム スミール桜ヶ丘 施設長（関係業界役員）
田沼 靖朗	田沼靖朗税理士事務所 所長、柏木学園同窓会会長（本校同窓生）

自己評価及び学校関係者評価・意見

1. 教育理念・目標 (適切—4、ほぼ適切—3、やや適切—2、不適切—1)

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
1-1. 理念・目的・人材育成像は定められているか	4	4	本校では、安楽交活(①安心して通える、通わせられる学校②楽しい雰囲気と学園生活のある学校③交流のできる学校④活力のある、イキイキとした学校)の理念のもと、商業実務に関する専門知識及び技術を修得させ、職業に必要な能力の育成と教養の向上を図ることを目的として教育を組み立てている。
1-2. 学校における教育の特色は明確か	4	4	74年の歴史の中で培ってきたビジネス教育に関するノウハウや、地域社会・産業界とのパイプを持っており、多くの卒業生との連携がある。学生とのふれあいを大切にしたり、きめ細やかな教育、グレード制を導入することにより、一人ひとりの学生にあわせた効果的な学習を行っている。
1-3. 学校の将来構想を抱いているか	4	4	26年に、情報ビジネス科・経営経理研究科・医療情報学科の3学科が、文部科学省より職業実践専門課程の認定を受け、今後も、企業等との連携を強化し、実践的かつ専門的な能力育成に努めている。
評価委員の意見等	・理念・目的・人材育成像を明確にし、長年にわたって専門教育に携わってきた点、評価できる。		

2. 学校運営

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
2-1. 運営方針は定められているか	4	4	毎年度、学校目標を設定するとともに、各職員には「年間業務計画書」の作成提出を求め、目標による管理を徹底している。

2-2. 運営組織や意思決定機能は効率的に行われているか	4	4	毎年度定める組織図、校務分掌表において、各分掌の責任者・担当者を明確にし、定期的に分掌会議を開き分掌毎の意思決定を行うとともに職員会議において分掌間の調整、組織全体の意思決定を行っている。
2-3. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4	4	学園事務局総務部にて、職員就業規則、給与規定が整備されている。
2-4. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	4	各職員にノートパソコンが貸与されており、クラウドコンピューティングによるスケジュールの共有化や、出席簿等各種業務をデータ化して共有することにより、業務の効率化を図っている。
評価委員の意見等	・学校運営は適切に行われていると評価できる。		

3. 教育活動

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
3-1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	4	4	教育課程編成委員会の助言を得ながら、常に社会のニーズに沿うようカリキュラムの見直しを行っている。クラス担任を配置することで個々の学生の学習到達度や学園生活、進路上での悩み等が容易に把握できる体制を構築している。
3-2. 学科の教育到達レベルや学習時間は、教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえたものとして確保され明確にされているか	4	4	PC関連の授業では、業務処理には必要不可欠となっている Word・Excel・PowerPointをはじめ、会計ソフトや医事コンピュータソフトを使用したより実践的な授業を展開している。経理実務分野では会社法や税法の改正に対応した授業を、さらに医療事務分野では健康保険法や高齢者の医療の確保に関する法律等の改正に随時対応した授業を行っている。商業実務分野の職種のありようを常に研究し、社会ニーズとのミスマッチがないよう努めている。今年度は履修科目を見直し、ドローン技術者を育成できるよう科目の変更を行った。全学科共、1800時間以上の学習時間を確保している。

<p>3-3. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>成績評価は前期試験、後期試験のほかに各教科に関連する資格試験の取得状況、授業内での単元テスト、課題の提出状況、学習態度、出席状況などを総合的に評価して決定する。その詳細は各科目のシラバスに明記され、学生に公開されている。また、進級・卒業に関しては、進級会議・卒業会議を開き、そこで決定する。これらの基準は学生便覧に明記され、年度当初のオリエンテーション期間に担任より学生に配布され周知される。</p>
<p>3-4. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>科目ごとに目標資格がシラバスに明記されており、その取得に向けた授業の展開がなされている。また、「技能審査等の合格にかかる単位認定制度」が設けられており、目標資格を取得することで単位を認定する措置が取られ、学生のモチベーション向上の一助となっている。</p>
<p>3-5. 人材育成目標の達成に向けた授業を行うことができる教員を確保しているか</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>本校で専門課程生を担当する教員は8名の非常勤講師のほかは全て専任教諭である。いずれも専修学校設置基準に規定されている資格要件を満たしており、本校の人材教育目標の達成に向けた授業を行うことのできる教員である。</p>
<p>3-6. 教職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>	<p>3</p>	<p>4</p>	<p>教職員が全員参加する研修のほか、簿記科・情報科等の教科ごとに様々な研修を行っている。また、進路指導部では履歴書作成指導、就職面接指導等での研修も行っている。更に、全国経理教育協会や神奈川県専修学校各種学校協会等、本校以外の様々な主催団体が企画する研修会・研究会に積極的に参加することを奨励している。</p>
<p>評価委員の意見等</p>	<p>・学生一人ひとりを大切にし、きめ細やかな教育活動を行っていることがうかがえ評価できる。</p>		

4. 学修成果

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
4-1. 就職率の向上が図られているか	3	4	<p>本校では、入学当初から、進路指導部と担任が共同してきめ細かな学生指導を行っている。</p> <p>今年度も、2年生を対象として、進路ガイダンス、進路相談会、校内会社説明会や面接講習等を実施し、1年生を対象に年度末に進路活動週間を設け、外部から企業や講師を招き企業研究やマナー講習を実施。また履歴書作成や面接指導等を実施した。留学生に関しては神奈川県民部国際課や学生のキャリアデザイン支援を行っている企業等の協力も得ながら、指導を行ってきた。</p>
4-2. 資格取得率の向上が図られているか	4	4	<p>科目ごとに目標資格を設定し、目標資格を取得することで単位を認定する措置が取られ、検定取得者は学期末に表彰する等、学生のモチベーション向上のための工夫を講じている。就職指導でも資格取得の重要性を強調し、今年度も多くの学生が経理実務士・実務士補の認定を受け、就職内定につなげる好材料となった。今年度の検定合格者数も前年度を上回っている。</p>
4-3. 退学率の低減が図られているか	3	4	<p>担任だけでなく全教員でサポートしながら退学防止を図っている。長期欠席の学生がいれば家庭訪問をしたり、留学生の場合は、母国の家族に直接問い合わせたり、出身日本語学校の協力を得ながら、状況把握に努めている。本年度の中途退学者は、4月当初280名の在学生に対して、3月末現在、24名であった。情報ビジネス科1年9名、2年7名、経営経理研究科1年2名、2年6名である。この内、家庭の事情・本人の健康上の理由が4名、就職が16名、ビザ申請不許可が2名、出席不良・学費未納のため除籍処分となった者が2名であった。ここ数年の傾向としては、就職が決まり就労ビザを取得し退学した学生が増えている一方、出席不良・学費未納のための除籍処分は減少している。</p>

4-4. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	4	直近の卒業生に関しては、就職した企業等を訪問し、卒業後の実態把握に努めている。また、年に一回、同窓会を開催しており、卒業生の動向把握に役立っている。
評価委員の意見等	・就職率の向上は評価できる		

5. 学生支援

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
5-1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4	入学当初から、進路指導部と担任が共同してきめ細かな学生指導を行っている。また、ハローワーク、神奈川県県民部国際課や企業等との連携も深めながら指導を行っている。今年度は6社の企業による校内会社説明会を実施した。本校にはキャリア・コンサルタントやジョブ・カード作成アドバイザーの有資格者がおり、適宜キャリアコンを実施している。
5-2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	4	主に担任と進路指導部、学生指導部が学生の相談にあっているが、相談内容によって適宜、適切な教員が対応している。全教職員が個々の学生をサポートする体制が確立している。
5-3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	4	学園奨学金制度や日本学生支援機構の奨学金制度を活用して支援にあたるとともに、希望者に対しては学費の分納を認め、負担軽減に努めている。
5-4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4	毎年1回の定期健康診断を実施。学校医を配置している。また、同じ建物内には姉妹校である大和商業高等専修学校の保健室があり、養護教諭が常駐しており、緊急時は、そちらを利用できる。
5-5. 学生の生活環境への支援は行われているか	4	4	生活環境支援が必要な学生の多くは留学生であるが、彼らのアルバイト先や住居の紹介、入居契約時の緊急連絡先引き受けなどの支援を行っている。

5-6. 保護者と適切に連携しているか	3	4	本校では、保護者と学生、職員で構成する教育交流会があり、そこを中心に保護者との連携を図るとともに、個別の事案では各担当が随時連絡を取っている。また、留学生に関しては、中国語、ベトナム語、英語が話せる教員を配置しており、必要に応じて本国の保護者と連絡を取っている。
5-7. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4	令和元年度も、近隣の高等学校から国際教育の一環としての取組みに本校留学生への協力依頼があり、以下の通り留学生を派遣した。 4月25日、県立大和西高等学校の国際理解教育「高校生の英語による留学生の横浜案内」に16名派遣、また9月30日には国際交流教育「高校生の英語による発表に対する表現や発音に対するアドバイス」に7名派遣。 7月9日、柏木学園高等学校の英語研修を目的とした異文化交流会に6名派遣。 11月15日、県立保土ヶ谷高等学校の国際交流教育の一環として「総合的な学習の時間」に9名を派遣。 また、夏休み特別講座として「高校生のためのRPGゲーム作成講座」を開講した。
評価委員の意見等	・全学生の保護者との連携は簡単なことではないと思うが、教員の努力は評価できる。		

6. 教育環境

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
6-1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	4	本校舎は、平成21年に最新の防音構造、耐震構造を備えた施設として改築されている。一般教室のほか、PC教室(4教室)があり各教室とも学習に専念するに十分な空間を確保している。その他に、介護実習室、アリーナ(体育館)を備えており教育上の必要性に対応できるよう整備されている。

6-2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	4	令和元年度は、情報ビジネス科、経営経理研究科で、野村證券株式会社横浜支店、株式会社ネエチア、株式会社きらぼし銀行大和支店、株式会社三菱東京UFJ銀行大和支店、松和電子システム株式会社、株式会社横浜銀行大和支店、株式会社ガスター、オイレス工業株式会社藤沢事業場にて職場実習を実施した。医療情報学科では横浜労災病院、麻生総合病院での病院実習、特別養護老人ホーム ル・リアンふかみで介護実習を実施した。
6-3. 防災に対する体制は整備されているか	4	4	姉妹校の大和商業高等専修学校と合同で地震防災・消防計画を立て、自衛消防隊を編成している。令和元年度は9月に学生を含めた防災訓練を実施している。
評価委員の意見等	・実習施設が充実しており評価できる。		

7. 学生の受け入れ募集

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
7-1. 学生募集活動は適正に行われているか	4	4	AO入試・推薦入試・一般入試の出願受付開始時期は募集要項・ホームページにおいて明示し、それ以前の願書の受理は一切行っていない。また、学校見学会やオープン・スクール等で入手した個人情報や学園の個人情報管理基準に基づいて厳格に管理している。
7-2. 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	4	資格取得・就職状況は入学案内やホームページで公開している。また、教育内容や学園生活での様々なイベント情報等も、随時、ホームページで公開している。
7-3. 学生納付金は妥当なものとなっているか	4	4	本校の学納金は、他の大学・短大・専門学校と比べても相当に低い水準に収まっている。
評価委員の意見等	・公明性を担保しながら募集活動を行っており評価できる。		

8. 財務

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
8-1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4	学生数は定員を満たしており、付帯事業収入もあり、安定した財務基盤を確保している。また、学園は他に、柏木学園高等学校、大和商業高等専修学校、都筑ヶ丘幼稚園の3組織を持ち、法人として安定した財務基盤を持っている。
8-2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4	本校の予算・収支計画は法人役員会にて策定され有効かつ妥当なものとなっている。
8-3. 財務について会計監査が適正に行われているか	4	4	内部監査・監事監査・監査人監査等の期中、期末の監査を実施しており適正な監査体制が確立されている。
8-4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4	4	規定を整備し、適正な運用が図られている。
評価委員の意見等	・財務の健全性・安定性が確保されている点、評価できる。		

9. 法令等の遵守

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
9-1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4	法令、設置基準等を遵守し、適正な運営を行っている。
9-2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4	学園事務局において、個人情報保護規定が整備されており、それに従って管理・保護している。
9-3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	4	年度末に全教職員を対象として「年間業務報告書」の提出を求めると共に、教職員自己評価アンケートを実施している。また、全学生を対象とした学校評価アンケート調査を実施し、実態と問題点の把握に努め、それをもとに改善を実施している。

9-4. 自己評価結果を公開しているか	4	4	26年よりホームページで公開している。
評価委員の意見等	・アンケートをもとに改善策を検討している点は、学生に対しての熱心な姿勢が感じられる運営状況と評価できる。		

10. 社会貢献

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
10-1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4	大和商工会議所との共催で日商簿記検定対策の夜間簿記講習会を開催し、地元中小企業の経理事務スタッフ養成研修の一助となっている。また、平成30年に、神奈川県県民局くらし県民部国際課との覚書をかわし、外国人留学生支援の拠点づくり事業の拠点校となっている。
10-2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4	学校全体の取り組みとして、大和市清掃の日に合わせて、学校周辺の清掃活動に参加させることでボランティア活動を体験させている。 また、近隣の学校等から英語教育の一環として留学生の協力要請が来こともあり、そのような機会には積極的に参加できるよう奨励、支援している。
10-3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施している	4	4	社会人未就職者が即戦力として早期に安定した職業に就くための知識・技能を習得する場として、ハローワーク等との連携をはかりながら神奈川県公共職業訓練・求職者支援訓練を実施している。 また、平成30年度より、厚生労働省による公的職業訓練に関する職業訓練サービスガイドライン適合事業所認定制度の始まりを受け、積極的に講習会に参加し、「サービスガイドライン適合事業所認定」を受けている。
評価委員の意見等	・地域社会に根ざした教育活動を行っており評価できる。		

1 1. 国際交流

評価項目	自己評価	学校関係者評価	状況
1 1-1. 留学生の受入れを行っているか	4	4	日本人学生と同様の条件で広く門戸を開いている。本年度は、情報ビジネス科、経営経理研究科で1・2年合計257名の留学生を受け入れてきた。
1 1-2. 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続等がとられているか	4	4	適切に受入れ、管理しており、東京入国管理局より「留学生受け入れ適正校」に認定されている。
1 1-3. 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	4	既定のカリキュラムの他に留学生だけの日本語の授業を設けている。また、日本語力向上のために、全ての科目において、専門用語等を平易な言葉で敷衍しながら、「聴く・書く・読む・話す」場面がバランスよく配置された授業に努めている。生活面においては、アルバイトや住居等で留学生特有の問題もあることから、留学生担当の分掌を設け、対応している。病気やケガ等で通院治療の必要な学生には各担任が医療機関の紹介や付き添いを行っている。 また就労ビザへの理解を深めるため、行政書士の方を講師として迎え教員向けに勉強会を開いた。
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 留学生はアルバイトとの両立で勉学に励み大変なことも多いであろうが、教員のきめ細やかなケアが感じられる。 		